

自分を成長させたペルー留学

大学院理工学研究科 2 年 佐藤義紘

留学先： ペルー・カトリカ大学

留学期間： 2015 年 8 月～2016 年 7 月

私は 2015 年 8 月から 2016 年 7 月までペルーのカトリカ大学に留学しました。この留学を通して学んだことを 2 つ紹介したいと思います。

1 つ目は、日本人は議論に弱いということです。日本人の外国語汎用能力がきわめて低いという点もあると思いますが、自身の意見を言えない、意見をペルー人や外国人留学生より持っていなかったと痛感させられました。日本人はやはり、わかっていることを美德とする風潮がありますが、外国人の場合はわからなくても、自分の知っていることを組み合わせ、意見を述べることにたけていると感じました。どちらが良い悪いではなく、自分に足りない能力であると気づきました。講義において外国語でアカデミックな内容を聞き取り、メモを取り、理解することは大変骨の折れることであり、生半可な気持ちではできないことだと気づきました。それに加え、教授の質問に答え、グループワークとなると、毎授業すごく緊張していました。最初は、本当に何も話せず最後まで悔しい思いをし続けました。しかし、後半からは何とか予習や予備知識を駆使してなんとか話すというよりはコミュニケーションで、少しずつ私自身の意見を言えるようになっていけたことが成長したことだと思っています。また、日本の大学の実験におけるラボラトリオを他大学で行ったとき、受講生の車に乗せてもらいました。行きの 40 分程度、ペルー大統領選挙について熱く議論していたことを覚えています。日本の政治についてどのくらいの日本の大学生が議論できるのでしょうか。私は日系人であるフジモリについて調べていたため、その知識を駆使して議論に参加しました。この時、日本では経験できない高揚感を感じました。日本の生活で、何かを熱く語ると冷めた目で見られることが多いのですが、ペルーでそれを感じたことは少なかったです。だから、もっといろいろなことを知りたい、話したい、わかりたいと毎日感じていました。これらのことを踏まえ、日本では勉学以外について議論することは少ないのではないかと感じています。

2 つ目は、大学の教育システムの違いです。日本の大学はそこそこの勉強で単位を取ることができますが、ペルーのカトリカ大学では、たくさんの本を読み、宿題に追われ、テストがたくさん行われます。単位を落とすことも珍しくありません。そして、単位が取れなければ卒業年がだんだんと遅くなっていきます。日本では同じ年に入学した友達たちと同じ年に卒業することが普通なため驚きました。ですので、ハングリー精神が違うと感じました。朝から夜まで大学にいて、大学の講義が始まる前から語学学校で英語の勉強をしているということも珍しくありません。そういった学生たちに感化されて、私も在学中の目標を改めました。

上記の内容は私が感じたことであり、他の人は感じないかもしれません。私は、自分を

成長させる機会に恵まれたため、留学をしてよかったと感じています。留学時にお世話になった教授の方々、家族、友達、大学、またダブルトライアングル関係者に感謝しています。このような方々のおかげで人生で価値のある貴重な経験をすることができました。



カトリカ大学内正門付近にて



大統領選挙時の警備をする軍の方をお願いして取った写真